

令和5年度 事業計画（案）

I 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきています。

一般財団法人世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目的とし、防災(BOSAI)という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を各国の政策や社会・文化に浸透させる事業を行ってまいります。そして、この事業を通して仙台防災枠組、パリ協定、持続可能な開発目標(SDGs)の進捗や達成のために貢献してまいります。

II 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

【WBF2025開催準備 2025年3月開催予定】

世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携し、専門家だけでなく国内外から産・官・学・民の防災関係者が広く集まる仙台発の市民国際フォーラムです。東日本大震災の知見の共有や、防災の具体的な解決策について議論し、「BOSAI」の取り組みを世界に広げ、「仙台防災枠組 2015-2030」を推進してまいります。

2023年3月10日から12日にかけて実施した第3回世界フォーラムは、3日間で40か国、延べ5412名の来場者、会議登録者1335名と成功裏に終了しましたが収支は赤字となりました。次回は会議としての成功はもちろんですが、収益面でも成功を収められるように早期に事務局を立ち上げ準備をスタートしてまいります。具体的には2023年内に会議テーマ、会場や実施時期、プログラムのコマ数などを決定し、セッションに関しては募集を開始したいと考えております。

また、世界防災フォーラムでは、防災文化の醸造を大切にしています。WBF2023のクロージングでは東日本大震災の復興にも携わった ZiNEZ&sakkumanによるフリースタイルバスケットボールパフォーマンス、東北大学交響楽団のメンバーによる演奏、仙台市立第一中学校合唱団による合唱、May J.さんのステージなどが披露され多くの来場者を魅了し、まさに防災と文化の融合を象徴したクロージングとなりました。次回についても防災と文化の融合は大きなテーマとして取り組んでまいりたいと考えております。

【世界防災関連博物館のネットワーク構築事業】

博物館は市民が防災を身近に感じることができる施設として重要な意味を持っています。しかし、現状では世界の博物館リストや、博物館同士のネットワークすら存在していないのが実情です。まずは「World Bosai Walk Tohoku+10」で培った東北沿岸部の震災博物館や伝承館のネットワーク作りを継続して実施していきます。

また、今期は関連事業として、米国のクーリッジ記念財団と連携し、関東大震災100周年にちなんで、関東大震災時に日本の復興支援を大規模に行った米国第30代大統領であるクーリッジの業績を紹介してまいります。

(2) 調査研究事業

【G D B 運営支援事業】

防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させるためには、災害が経済に与える影響を、わかりやすい形で示す必要があります。仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバル統計センターの活動を継続して支援してまいります。

【途上国の災害リスクの軽減プロジェクト（バングラデッシュのトルネード災害の軽減）】

バングラデッシュの気象庁、バングラデッシュ防災センター、世界風工学会等と連携し、ICT を駆使したトルネードの警報システムの導入と、住民が命を守ることを可能にするトルネード・シェルターの普及を目指したプロジェクトに取り組んでまいります。

【防災に関する動向のとりまとめ、調査書の発行】

WBF2023では仙台防災枠組について、提言（SENDAI RECOMMENDATION）を取りまとめました。このような提言や調査書を、今後積極的にとりまとめ社会に発信してまいります。

2. 収益事業

【震災博物館等の見学ツアー、防災文化祭（仮称）】

「世界防災関連博物館のネットワーク構築事業」と関係し、国内外の震災遺構や防災、震災博物館を見学するツアーを醸成し、多くの方に防災に興味を持ってもらうとともに、支援者獲得にもつなげてまいります。本件はWBF2023で連携した株式会社ティーアンドエス（東京都渋谷区 代表取締役社長 稲葉繁樹、株式会社ジエイブ 大阪府堺市代表取締役社長 高橋フェデル）等の民間企業とコラボレーションし、これまでのスタディツアーとは異なる新しいイベントを企画検討してまいります。これらの事業はWBF2025のプレイベントとしての位置づけとしても重要なポイントだととらえています。

【教育事業】

国連などの国際機関を目指す方向けの教育プログラム等を開発し、2025年度の実施を目指し検討してまいります。

【コンサルタント事業】

民間企業等が実施する防災関連事業に関する助言や提言、国際会議やセミナーなどの開催支援を実施してまいります。

【防災・環境関連ソリューション販売支援事業】

WBFの開催も3回を数え、民間の間でもWBFの知名度が高まってまいりました。防災や環境関連に有効だと思われるソリューションについて、開発元やディーラーと連携し、販売支援を実施してまいります。

Ⅲ 運営基盤の強化について

1. 財務

第4回世界防災フォーラムの事務局を既に立ち上げましたが、スポンサー募集や参加登録を前回以上に早期に開始します。企業向け会員制度について2022年度に立ち上げましたが、今後会員増加に努めます。個人向けの寄付についてもこれまでは低調でしたが、支援者は将来のWBF来場者にとらえ、プロモーションやコミュニケーションの見直し、制度の再検討などを実施してまいります。

なお、2023年8月期で決算では未払金が発生する見込みであり、収益事業についてはこれまで以上に積極的に手掛けてまいります。

2. 体制

事務関連1名、リサーチャー1名を新規採用し、事業拡大にあたります。また、WBF2025の準備としては、これまでも多大なご支援いただいた東北大学災害科学国際研究所との連携をさらに強化することにより、早期の準備を実現します。

3. 広報活動

これまで以上にWEB、SNSを活用した広報活動を展開し、財団知名度向上のための活動を強化する。また海外向けの広報を強化してまいります。

以 上